

# 岩手県感染症週報

平成29年第5週（1月30日～2月5日）

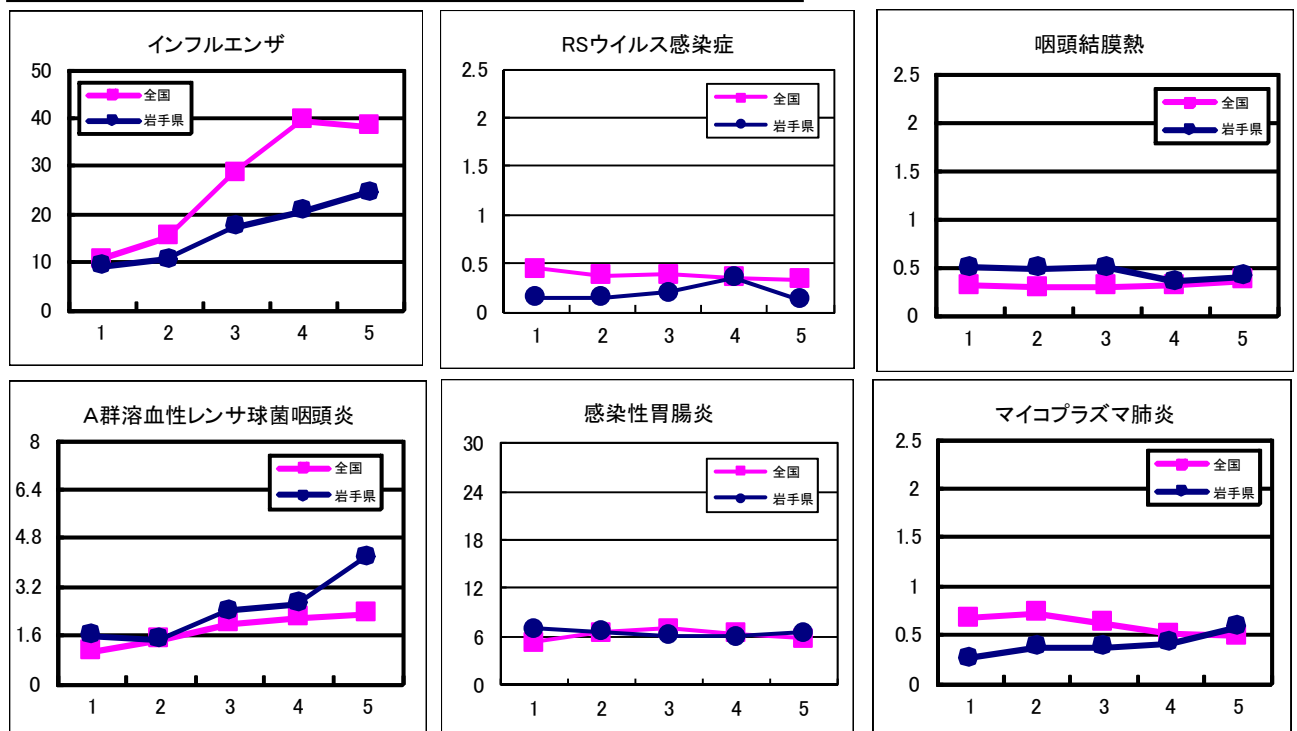
岩手県感染症情報センター

## 第5週の概要

- 1 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 2 類感染症 ・結核の報告が2例ありました。潜在性結核感染症の報告はありませんでした。
- 3 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 4 類感染症 ・レジオネラ症の報告が宮古地区から1例ありました。患者は40歳代の男性です。
- 5 類感染症（全数把握対象疾患）
  - ・カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の報告が宮古地区から1例ありました。患者は80歳代の女性です。
  - ・水痘（入院例）の報告が盛岡市から1例ありました。患者は40歳代の男性です。
- 5 類感染症（定点把握対象疾患）
  - ・インフルエンザは、一関、宮古、中部地区で警報値（定点あたり患者数30人）を超えました。その他の地区でも注意報値（同10人）を超えています。年齢層別では10～14歳が最も多くなっており、学校等での感染拡大に注意が必要です。症状がある場合は早めに受診することが勧められます。発症後5～7日間はウイルスを排出すると言われていたため、熱が下がった後もマスクの着用などの咳エチケットを継続することが重要です。
  - ・感染性胃腸炎は、前週より増加しました。調理前や食事前、トイレの後には石けんと流水による十分な手洗いをを行うこと、患者の吐物や便を処理する際は使い捨ての手袋やマスクを着用し、塩素系薬剤を使用することが重要です。
  - ・溶連菌咽頭炎は、二戸地区及び盛岡市で警報値（同8人）を超えました。症状は、発熱や全身倦怠感、咽頭痛などです。手洗いやうがい、患者との濃厚接触を避けることが重要です。

## 最近の注目疾患（定点あたり患者数の過去5週の動き）

（疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意）



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

報告週対応表 <http://www.nih.go.jp/niid/ja/calendar.html>

※2013年第42週より感染性胃腸炎 (ロタウイルス) が定点把握対象疾病となりました。

(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向	
		1	2	3	4	5		
インフルエンザ	岩手県	9.09	10.65	17.29	20.52	24.45	↗	☆☆
	全国	10.58	15.25	28.66	39.41	38.14		
RSウイルス感染症	岩手県	0.15	0.15	0.2	0.35	0.13	→	☆
	全国	0.45	0.37	0.38	0.35	0.33		
咽頭結膜熱	岩手県	0.5	0.48	0.5	0.35	0.4	→	☆
	全国	0.31	0.29	0.3	0.31	0.36		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	1.6	1.45	2.4	2.63	4.18	↗	☆☆
	全国	1.06	1.45	1.99	2.17	2.32		
感染性胃腸炎	岩手県	7	6.6	6.08	6.05	6.53	→	☆
	全国	5.31	6.48	7	6.36	5.8		
水痘	岩手県	0.3	0.33	0.15	0.13	0.23	→	☆
	全国	0.57	0.43	0.35	0.34	0.28		
手足口病	岩手県	0.05	0.05	0	0	0.08	→	
	全国	0.16	0.14	0.22	0.17	0.16		
伝染性紅斑	岩手県	0.05	0.05	0.13	0.03	0	→	
	全国	0.09	0.09	0.11	0.09	0.08		
突発性発疹	岩手県	0.43	0.48	0.43	0.38	0.38	→	☆
	全国	0.26	0.38	0.41	0.36	0.37		
百日咳	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01		
ヘルパンギーナ	岩手県	0.05	0	0	0	0	→	
	全国	0.03	0.03	0.03	0.03	0.02		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.4	0.38	0.48	0.58	0.4	→	☆
	全国	0.83	0.85	0.59	0.59	0.66		
急性出血性結膜炎	岩手県	0	0	0.14	0	0	→	
	全国	0.01	0.02	0.01	0	0		
流行性角結膜炎	岩手県	0.43	0.36	0.07	0.07	0.29	→	☆
	全国	0.58	0.59	0.55	0.49	0.47		
細菌性髄膜炎	岩手県	0.05	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.02	0.02	0.01	0.03		
無菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.03	0.03	0.03	0.03	0.02		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.26	0.37	0.37	0.42	0.58	→	☆
	全国	0.67	0.72	0.62	0.51	0.49		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.02	0.01	0.02	0.02		
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	岩手県	0.05	0	0.05	0.05	0.05	→	
	全国	0.05	0.06	0.07	0.10	0.08		
インフルエンザ (入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	16	25	18	28	31		
	全国	745	994	1,241	1,610	1,505		

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※ジカウイルス感染症が2016年2月15日から四類感染症に追加されました。

(患者発生数)

分類	疾病名	岩手県					全国		
		(週) 1	2	3	4	5	累計	5	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 ( ) 内は潜在性結核感染症患者再掲	0 (0)	8 (4)	3 (1)	2 (0)	2 (0)	15 (5)	324	1728
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	0
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	2	21
	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	0	0	0	0	9	66
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	1	1
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	0
四類 感染症	E型肝炎	0	1	0	1	0	2	4	26
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	3	12
	エキノコックス症	0	0	0	0	0	0	1	3
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	0
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	0
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	1
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	1
	つつが虫病	0	0	0	0	0	0	5	32
	デング熱	0	0	0	0	0	0	1	23
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	1
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	1
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0	
ポツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	0	
マラリア	0	0	0	0	0	0	1	5	
野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	
ライム病	0	0	0	0	0	0	0	0	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0	
レジオネラ症	0	0	0	0	1	1	13	89	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	0	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

分類	疾病名	岩手県					全国		
		(週) 1	2	3	4	5	累計	5	累計
五 類 感 染 症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	0	12	98
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	0	2	21
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	0	1	0	1	2	24	127
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	0	0	0	13	80
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	0
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	3	15
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	7	45
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	1	0	1	9	107
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	1	4
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	1	0	0	1	0	40
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	1	3
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	0	0	0	0	1	47	358
	水痘 (入院例)	0	0	0	0	1	1	2	20
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	0	0	0	1	0	1	55	362
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	0	15
	破傷風	0	0	0	0	0	0	0	3
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	2	9
	風しん	0	0	0	0	0	0	2	6
麻しん	0	0	0	0	0	0	6	15	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	2	

今注目の感染症

梅毒

梅毒は、梅毒トレポネーマという小型の細菌によって引き起こされる感染症です。主に、性的接触により、粘膜や皮膚の小さな傷から侵入して感染します。

3～6週間程度の潜伏期の後に、感染箇所初期硬結や硬性下疳がみられ (I期顕症梅毒)、その後数週間～数カ月を経過すると病原体が血行性に全身へ移行し、皮膚や粘膜に発疹がみられるようになります (II期顕症梅毒)。I期顕症梅毒、II期顕症梅毒を早期顕症梅毒と総称します。さらに、感染後数年～数十年経過すると、ゴム腫、心血管症状、神経症状などが出現する場合があります、これを晩期顕症梅毒といいます。

早期と晩期顕症梅毒の間に症状が消える無症候期があり、これが、診断・治療の遅れにつながることがあります。また、終生免疫は得られないので、再感染の可能性もあります。

全国では、2010年以降梅毒の報告数が増加に転じております。男女の異性間接触による報告数増加や母子伝播による先天梅毒も報告されています。岩手県の年別報告数も、例年、数例の報告でしたが、2016年には9例の報告がありました (図)。

早期発見、早期検査が重要です。感染が疑われる症状が見られた場合には、早期に医師の診断・治療を受けることが重要です。

参考 国立感染症研究所 IASR 2015年2月号

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/id/742-disease-based/ha/syphilis/idsc/iasr-topic/5404-tpc420-j.html>

国立感染症研究所 IDWR 第48週 注目すべき感染症

<http://www0.nih.go.jp/niid/idsc/idwr/IDWR2016/idwr2016-48.pdf>

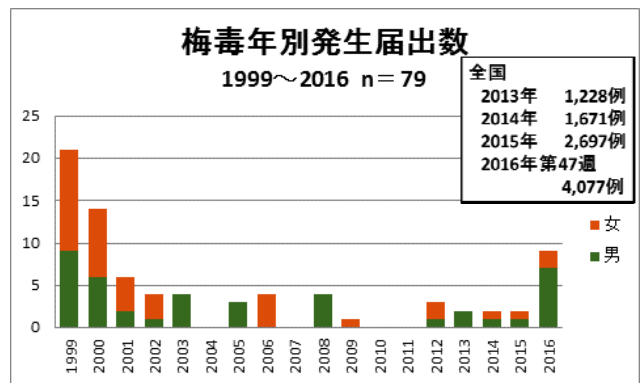


図 岩手県の年別報告数 1999-2016年

今注目の感染症 (つづき)

インフルエンザ

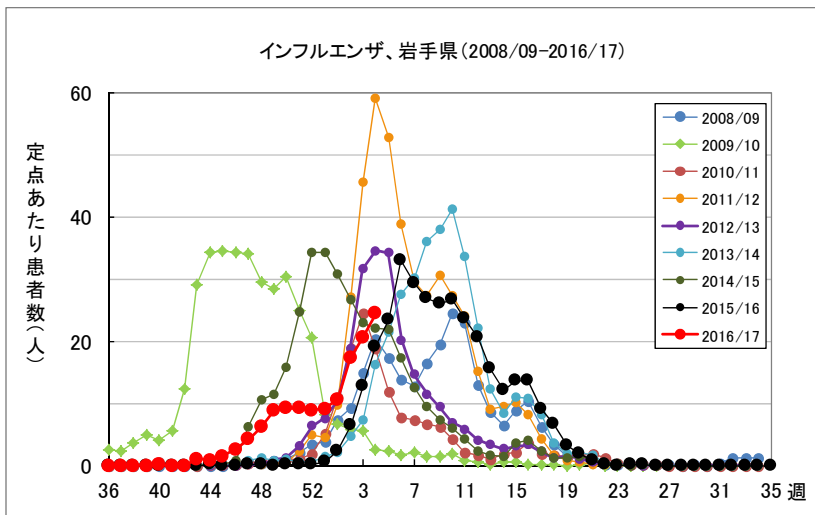
インフルエンザは、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症です。潜伏期間は1～3日間と短く、38℃を超える発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛等の全身症状が突然現れます。

岩手県では、例年11月下旬～12月上旬頃に発生が始まり、翌年1～3月頃に患者数が増大します。今シーズンは、2016年第45週に県全体の定点あたり患者数が1.54人となり、流行開始のめやすである1.0人を上回り、例年より早く流行入りしました。その後2017年第2週に県全体の定点あたり患者数が10.65人となり、注意報値である10人を超えました。2017年第5週は、24.42人に増加し、流行がさらに拡大しています。一関、宮古、中部地区で警報値(定点あたり患者数30人)を超え、その他の地区も注意報値(同10人)を超えています。

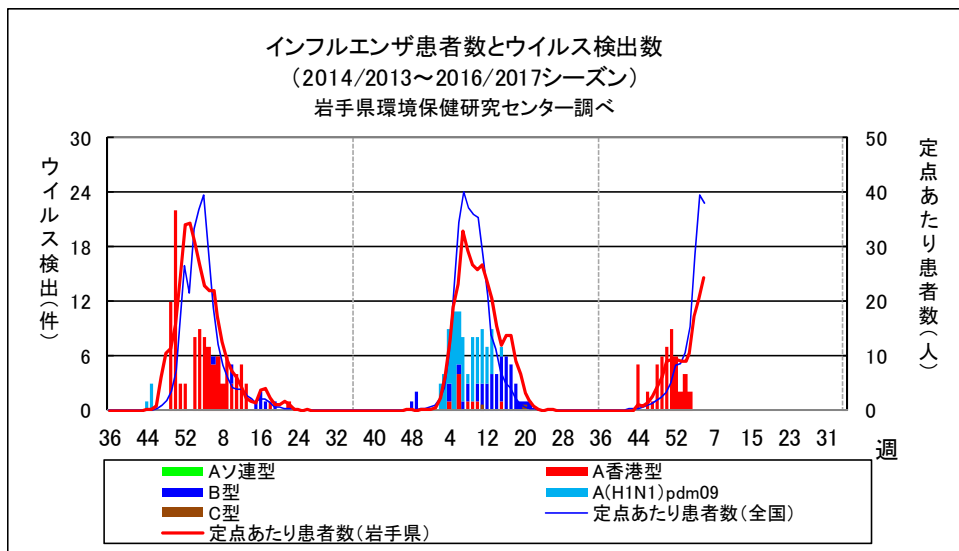
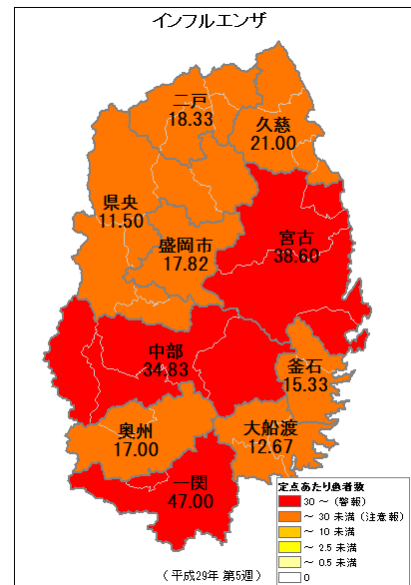
県環境保健研究センターで実施したウイルス検査では、A香港型ウイルスが検出されました。今シーズンはA香港型の検出が続いています。

飛沫感染対策としての咳エチケット(咳をする際は他の人から顔をそむけティッシュやハンカチで口を覆う等の対応を行うこと、有症者自身がマスクを着用すること)、接触感染対策としての手洗い等の手指衛生を徹底することが重要です。また、発症後5～7日間はウイルスを排出すると言われており、熱が下がった後も周囲への感染拡大を防ぐため、咳エチケットを継続する必要があります。

参考 国立感染症研究所 インフルエンザとは <http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/219-about-flu.html>



※インフルエンザシーズンは第36週から翌年第35週まで





今注目の感染症 (つづき)

感染性胃腸炎

感染性胃腸炎は、細菌やウイルスなどの微生物を原因とする胃腸炎の総称です。毎年秋から冬にかけて流行し、その原因はノロウイルスやロタウイルス等のウイルスが大部分を占めています。近年では、流行の前半ではノロウイルスが、後半ではロタウイルスが患者から多く検出されています。

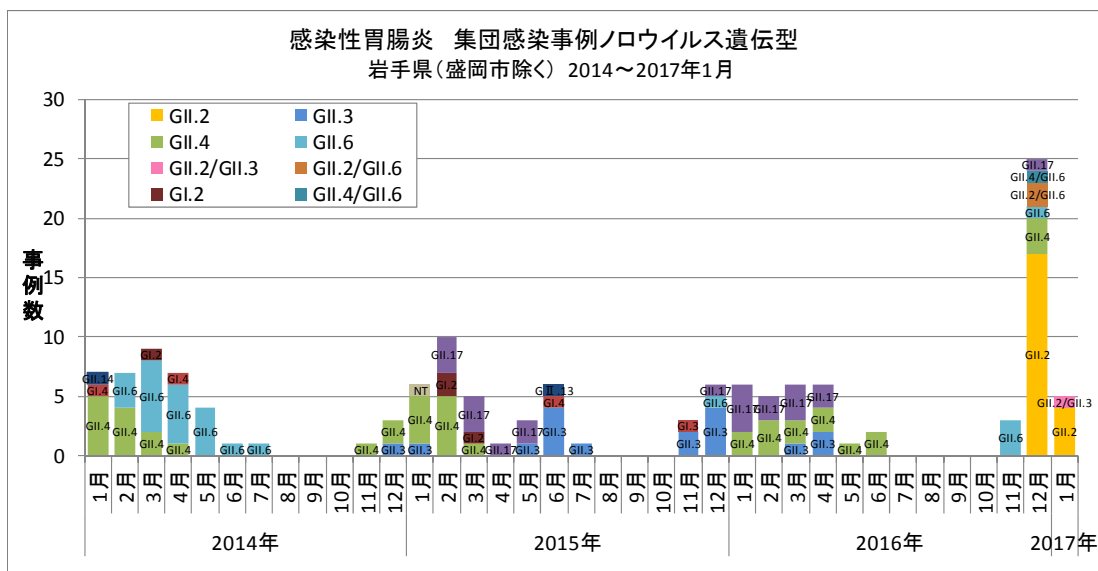
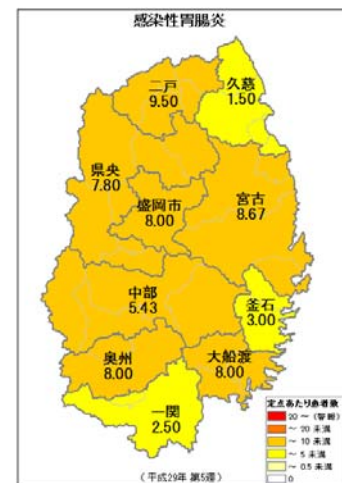
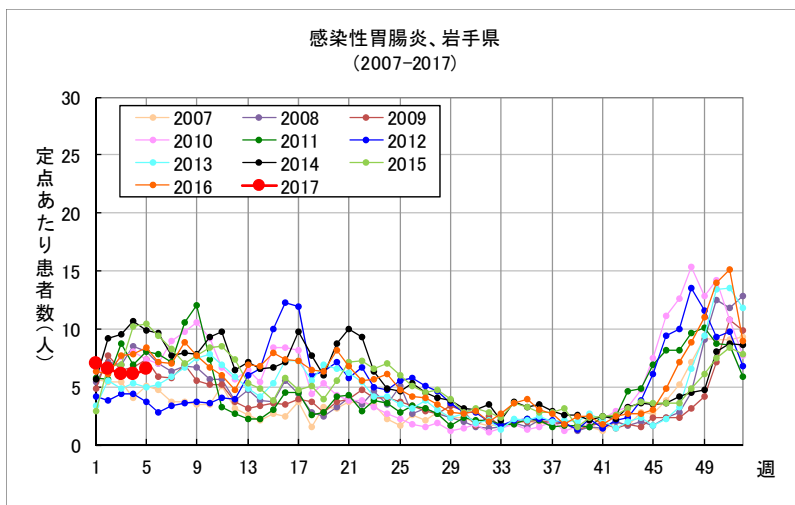
感染性胃腸炎の報告数は、例年11月頃から増加し、12月にピークを迎えます。2017年第5週の県全体の報告数は、定点あたり患者数6.53人となりました。また、保育所等における集団感染事例も相次いでおり、その多くがノロウイルスの感染によるものです。保育所や老人福祉施設など、集団生活を営む施設では、感染予防対策の徹底が必要です。

ノロウイルスによる集団感染事例について、県環境保健研究センターが実施した検査では、これまでGII.3、GII.4、GII.6、GII.17が主に検出されてきましたが、2016年12月からはGII.2が多く検出されています。

感染性胃腸炎の主な原因となるウイルスは、感染力が非常に強く、少量のウイルスでも感染するので注意が必要です。予防には、調理前や食事前、トイレの後などに石けんと流水による十分な手洗いをを行うこと、患者の吐物や便を処理する際は、使い捨ての手袋やマスクを着用し、塩素系薬剤を使用すること、食品を十分に加熱することが重要です。

参考 厚生労働省 ノロウイルスに関するQ&A

[http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html)



## 病原体検出情報

- ・百日咳の患者の喀痰から、ライノウイルスを2件検出しました。
- ・下気道炎の患者の咽頭ぬぐい液から、ライノウイルスを1件、RSウイルスを4件、それぞれ検出しました。
- ・無菌性髄膜炎の患者の髄液から、ムンプスウイルスを2件検出しました。
- ・咽頭結膜熱の患者の咽頭ぬぐい液から、アデノウイルス3型を2件検出しました。
- ・不明熱の患者の咽頭ぬぐい液から、アデノウイルス3型を2件検出しました。
- ・流行性角結膜炎の患者の結膜ぬぐい液から、単純ヘルペスウイルス1型を1件検出しました。
- ・伝染性紅斑の患者の咽頭ぬぐい液から、パルボウイルスB19を1件検出しました。
- ・上気道炎の患者の咽頭ぬぐい液から、アデノウイルス2型を2件検出しました。
- ・RSウイルス感染症の患者の咽頭ぬぐい液から、RSウイルスを2件検出しました。
- ・感染性胃腸炎の患者の糞便から、アデノウイルス1型を1件検出しました。

## 集団感染情報

○インフルエンザによる学校等の休業措置について（2月2日～2月8日発表分）

- ・岩手県 40件
- ・盛岡市 8件

詳細は岩手県医療政策室のホームページを御覧ください。

<http://www.pref.iwate.jp/iryuu/kenkou/Influ/index.html>

## 医療機関からの情報

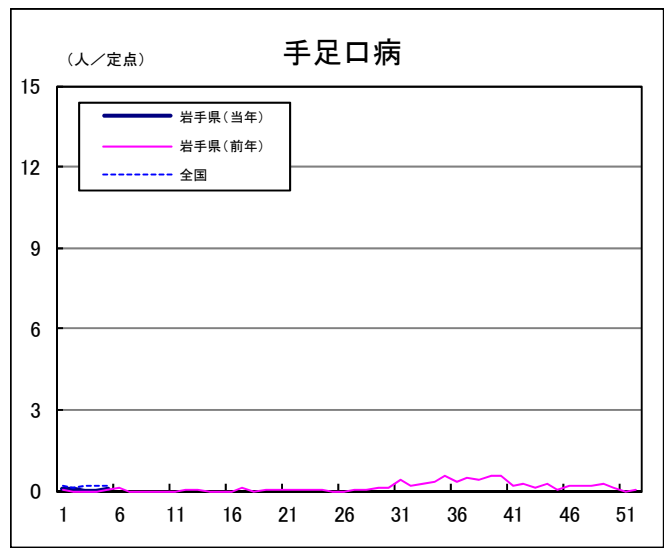
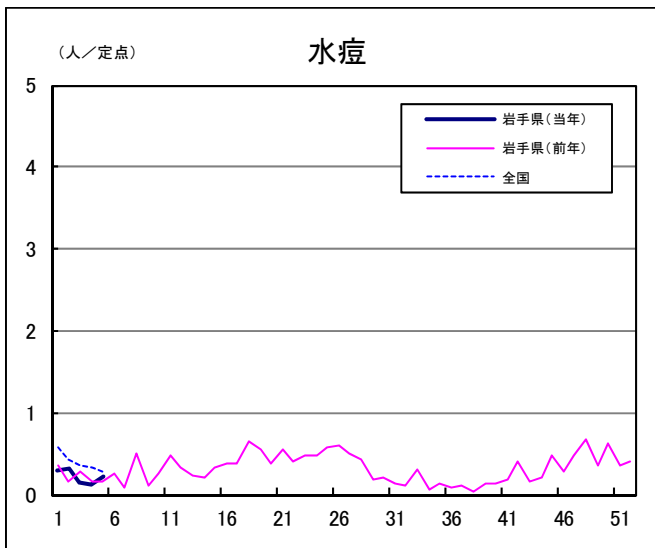
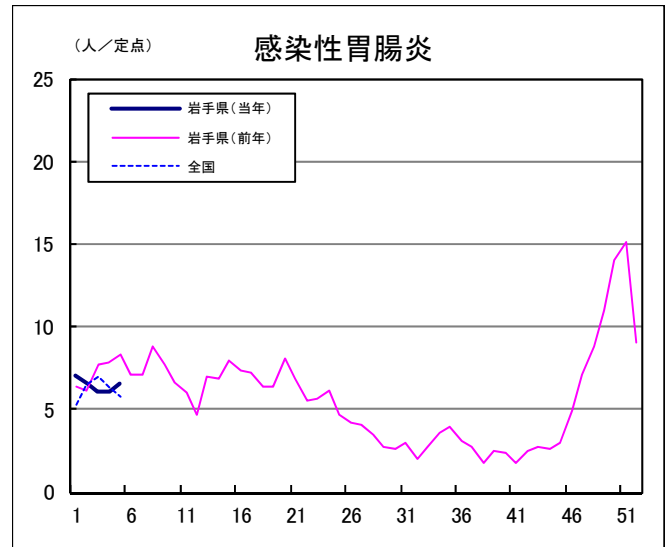
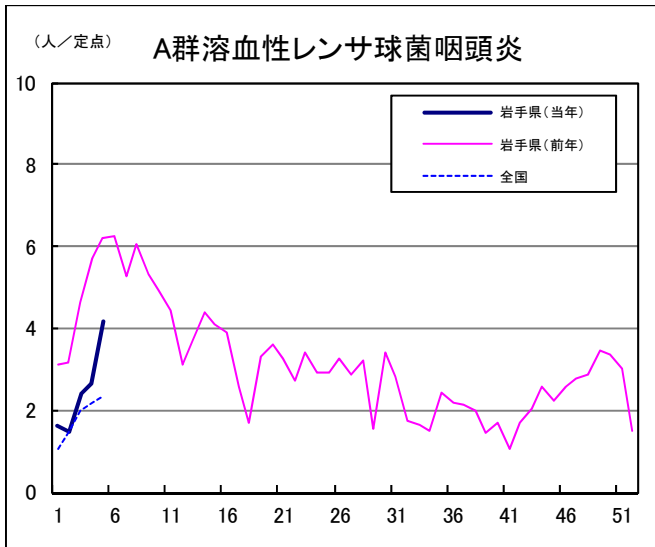
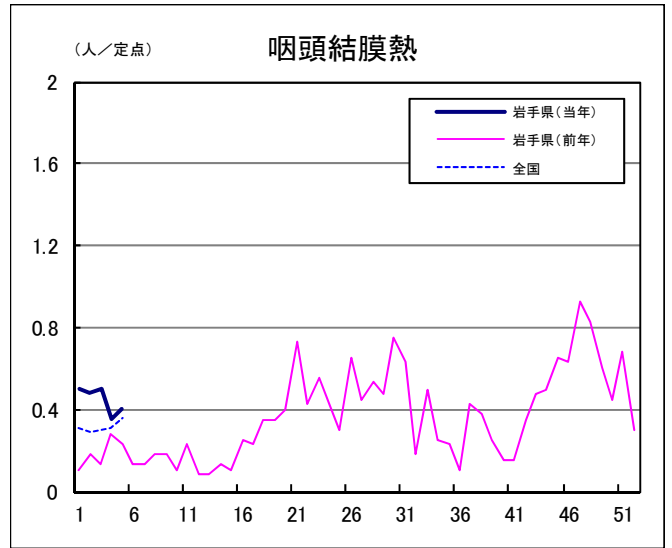
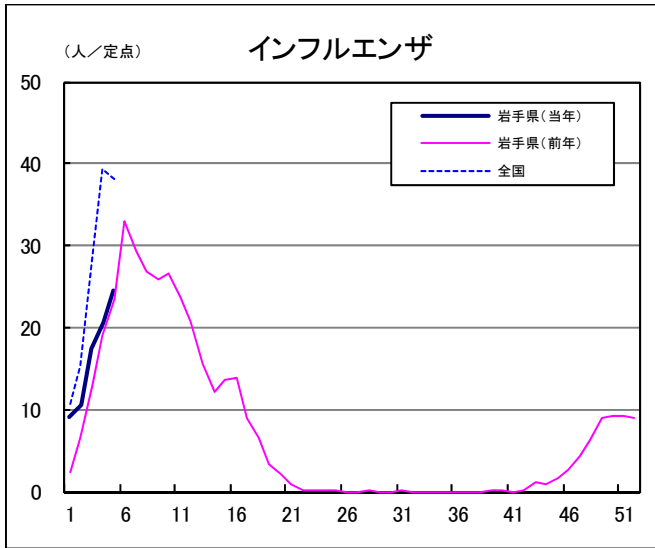
- ・この週には医療機関からの情報はありません。

## Q & A

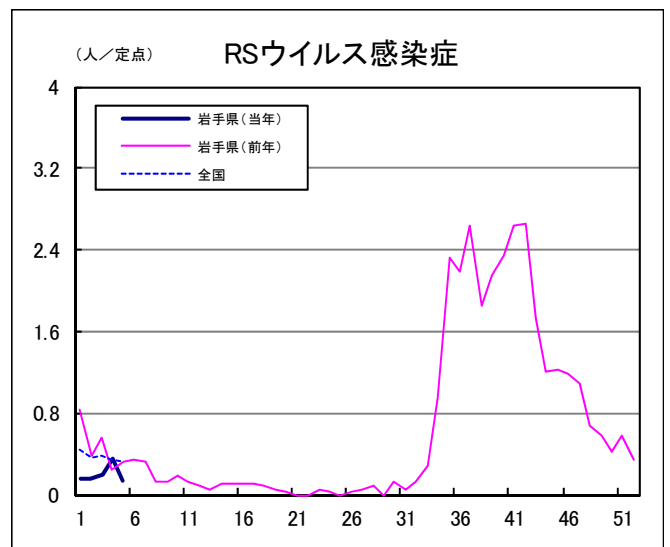
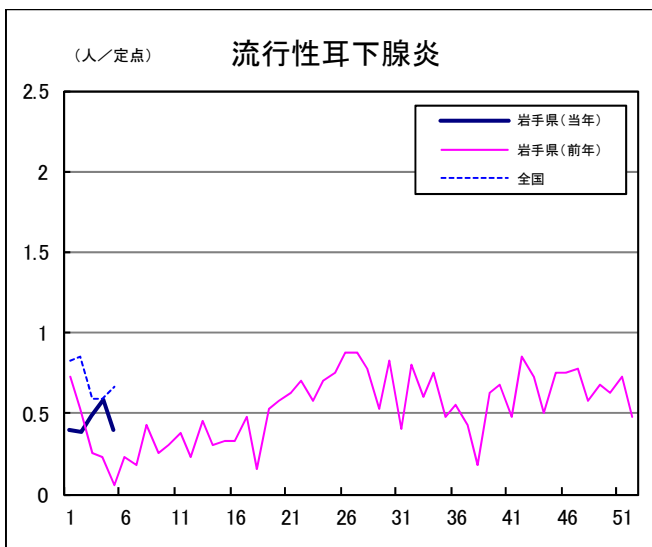
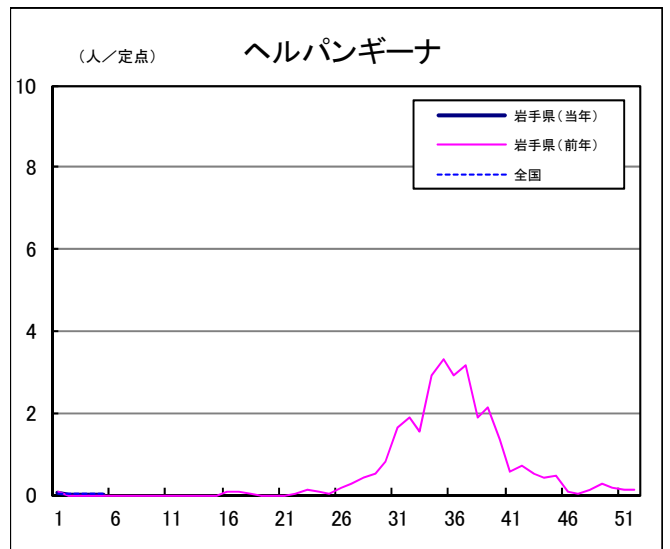
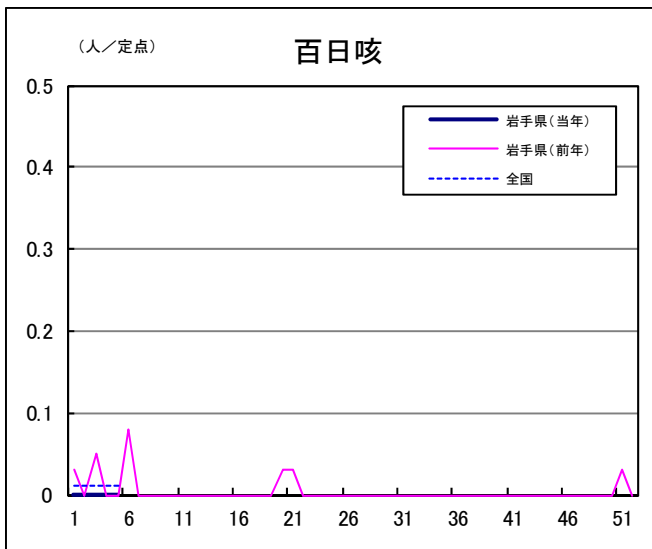
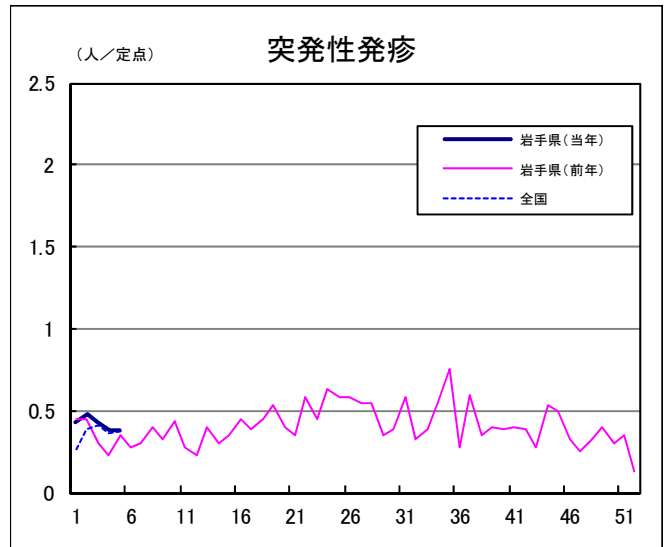
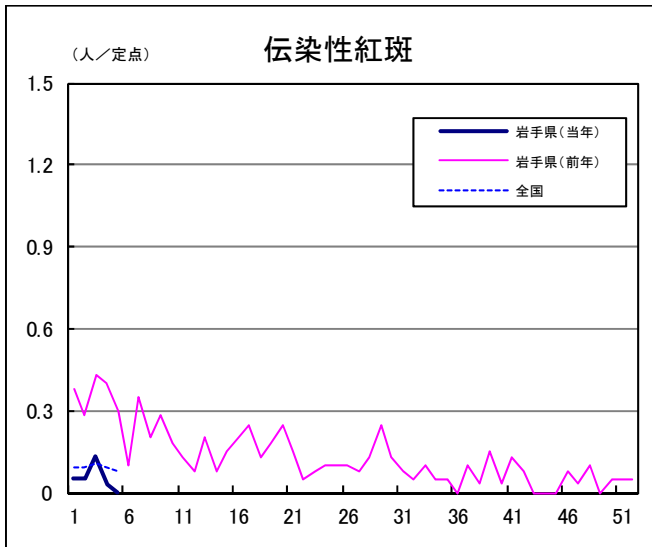
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

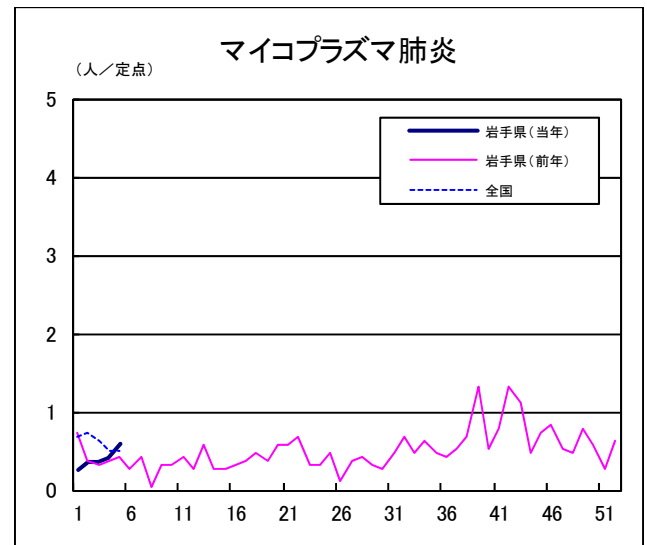
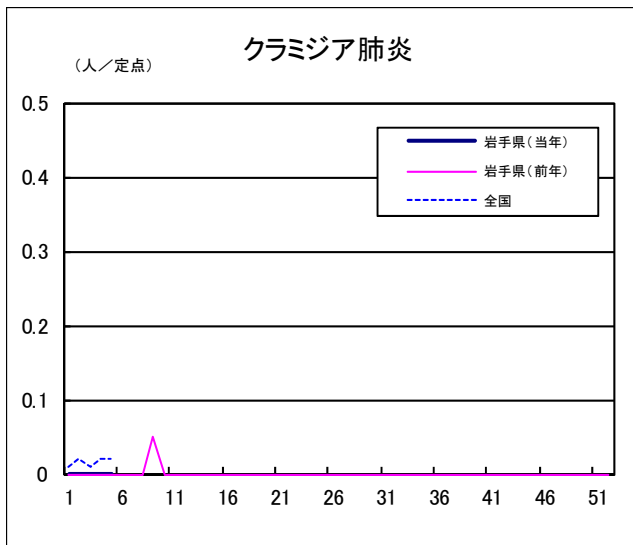
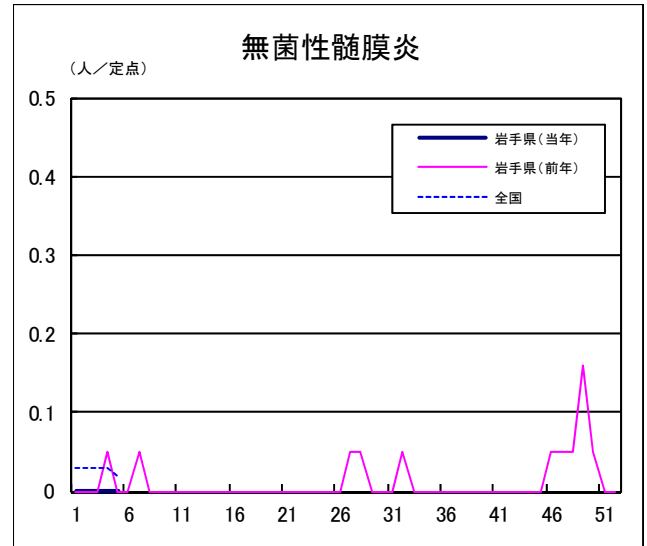
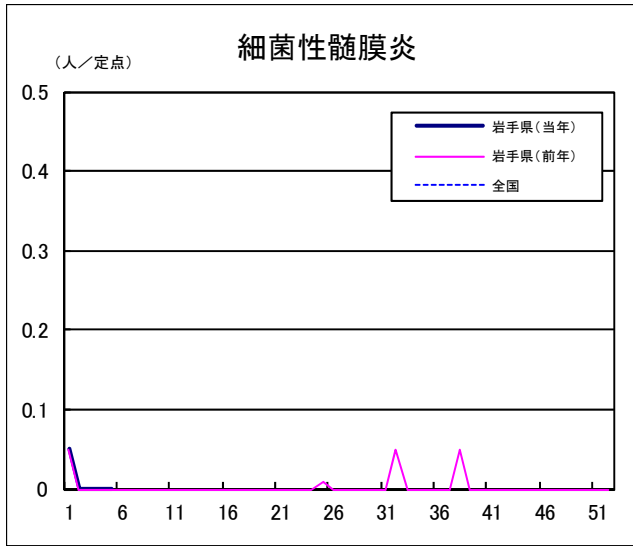
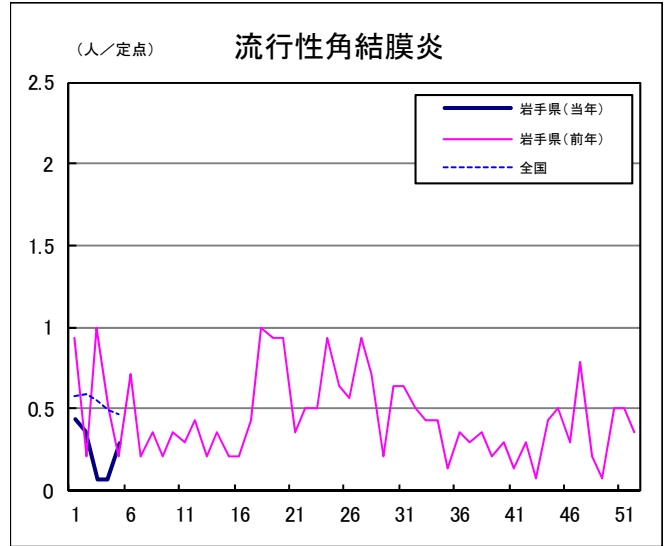
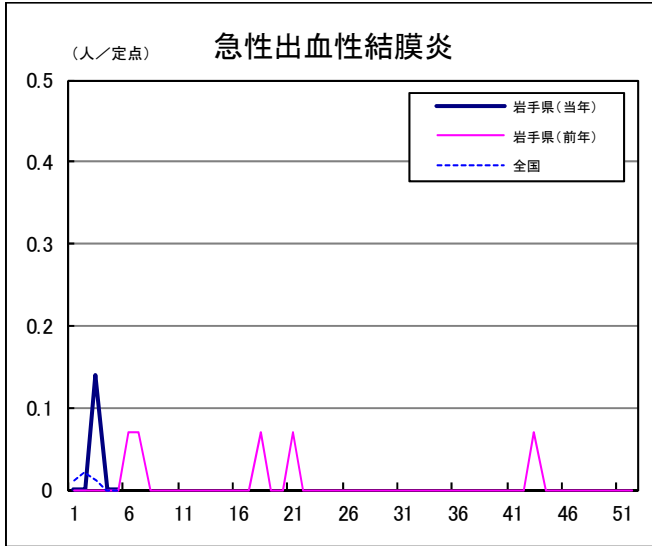
医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。  
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）  
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16  
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667  
E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)









定点医療機関の数

地区	定点種別	インフルエンザ	小児科定点	眼科定点	基幹定点
岩手県		65	40	14	19
盛岡市		11	7	3	5
県央		8	5	2	0
中部		12	7	2	4
奥州		7	4	1	2
一関		7	4	1	2
大船渡		6	4	1	1
釜石		3	2	1	1
宮古		5	3	1	1
久慈		3	2	1	1
二戸		3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成29年第5週 平成29年2月10日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター  
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター  
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<http://www.pref.iwate.jp/iryuu/kenkou/index.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>